

15 ロンドン・ジェネラル・インスティテューション設立の理念

柳澤波香

ロンドン・ジェネラル・インスティテューション (The London General Institution, 後の The Royal Free Hospital) は一八二八年、外科医 William Marsden 他の篤志家により設立された。その設立及び背景について述べる。

1、背景

The London General Institution (以下、LGI) が設立される百年程前から英国各地では病院の創立が相次いだ。一七〇〇年から一八二五年の間に英国では一五〇余の病院が設立された。例えば、ロンドンでは、ウエストミンスター病院、ガイ病院、セント・ジョージ病院、ロンドン病院、ミドルセックス病院が一八世紀前半に、また各地方都市にも病院が次々と設立された。これらの病

院は、政府や自治体などの公の力によって設立されたのではなく、博愛心に満ちた一般の人々の善意と寄付金によって、貧者のために設立された。受診には病院設立に出資した者 (subscriber) 或いは病院運営委員 (governor) の紹介状が必要で、それがあれば受診が可能であった。

しかし、時代と共にこの紹介状を得る手続は徐々に煩雑になり、金銭の出費を伴うようになった。また病棟の看護婦や搬送係にも一定の金銭を支払うのが慣例となった。この為、貧者に無償で医療を施すという設立理念とは異なり、貧者が病院治療を受けることが困難になった (但しそれでも食事は無料で、医師に対する支払いも不要であった)。

2、LGIの設立

一八二七年二月、外科医 William Marsden はロンドン市中の教会前で、重病で倒れている若い女性を発見した。Marsden は女性を馬車に乗せ、三つの病院を巡ったが、当該病院の governor の紹介状を有していないこと、また、その女性がいかがわしい素性の者であろうと推測されたため、入院・診察を拒否された。Marsden は

自宅の近くの宿屋に女性を保護したが、二日後に彼女は死亡した。死因は結核とも梅毒ともいわれる。病院運営委員の紹介状が入院には必須であり、病院が設立当初の理念とは異なり、貧民の医療に十分な役割を果たしていないことに日頃から疑問を抱いていた Marsden は、これを機に、従来の受診手続とは異なる、医療・看護を必要とする者は何人であれ受診・入院可能な施設を設立することを決意、一八二八年四月、Marsden を含む二十七名の篤志家は、ロンドンの Greville Street に家を借り、LGI を設立した。

3、LGI の特徴

LGI は当初、外来診療所として発足し、往診も行った。『紹介状は不要。貧困と疾病が診療所へのパスポート』とされた。在来の紹介状制度を無視すると同時に、LGI は当時殆どの病院で診療を拒否されていた梅毒患者を受け入れたために、世間の非難を浴びた。梅毒は罪の報いであるという考え方があったためである。しかし、LGI は梅毒患者を社会的弱者と見做し、診療を施し、シェルターを提供した。革新的・進歩的であるが故に、

開設当初は偏見に抗さなければならなかったが、LGI が社会的に高い評価を得たのは一八三二年のコレラの流行時である。他の病院が門戸を閉ざす中、LGI は、外科医二名、内科医一名、薬剤師一名でコレラ患者の治療に当たった。婦長の働きをしたのは家政婦であり、使用人が看護に当たった。

4、The Royal Free Hospital への改称

コレラの流行が沈静化した一八三三年、LGI は The Free Hospital と改称し、翌年、ヴィクトリア女王の即位と共に、The Royal Free Hospital となった。これ以後、その他の病院も The Royal Free Hospital に倣い、患者に対する支払を求めなくなった。

なお、William Marsden は一八五一年、更にロンドンに癌専門病院(The Cancer Hospital, 現在の The Royal Marsden Hospital) を設立した。

(東京都新宿区)